

5 月定例会

- ◆日時：2010年5月15日(土) 14:00～17:00
- ◆内容：全国セミナー分科会内容の検討 中村まり子さん
理論と実践報告：宮原さんのレポート
子どもの感性を育む資料、教材を持ち寄ろう

2010年5月15日



金沢の全国夏季セミナーに、今年、長崎が出すのは中村まりさんの「助産師が行う性教育 ～生きる力、性といのちをどう伝えるか～」というタイトルの分科会で「悲しみの性」から「豊かな性」への学びの手助けをしたいと、地道な取り組みから、少しずつ輪が広がり、今や長崎県内のあちこちから引っ張りだこの忙しい毎日。対象は赤ちゃんから(いや、胎児から)高齢者と生涯にわたります。話の種はつきません。

分科会では、中村まりさんが特に伝えたい内容に絞ってもらい、参考になりそうな資料をたくさん持ち帰ってもらおうということになりました。

宮原さんの「理論と実践講座」の報告

今年は「『性と暴力』の関係を問う」というテーマでした。

「性被害にあうということ」をテーマで小林美佳さんの講義のなかで、当事者支援をするときに、当事者と同じように体感できないんだということをふまえて関わってほしい。

といわれたことが印象に残ったそうです。

「性暴力としてのポルノグラフィ——ポルノ被害を可視化する」というテーマで福島大学の中里見 博さんが講義。

ポルノ禁止というと、表現の自由と反対する人がいる。が、そうではなくて、「性」と「暴力」が結びついた性表現が問題であると説く。

「アンチ・ポルノ」は「アンチ性表現」でも、「アンチ・セックス」でもない。

「豊かな性表現」「豊かな性」が開花する前提としての反ポルノ、ポルノ規制を目指す。児童ポルノの単純所持が禁止されていないのは、先進国では日本とロシアぐらいだといふ。

もっと問題なのはマンガの垂れ流し状態。

韓国では画期的な法律が制定された。それは「性売買禁止法・防止法」の中で予防教育を実施しなければならないというもの。10時間以上教育の時間が設定されているのです。

すごいですね！

ニュース

長崎県に「障害児・者の性を考える教育研究会」が発足する予定です。

年に1～2回合同で学習会や講演会などジョイントできればいいなと思います。



子どもの感性を育む資料や教材
参考になる資料を2人持参してくれました。

言いたしっぺがすっかり忘れてしま
っていて～すみませんでした。